

この表示によつて、出生数を昭和二十二年と本年を比較すれば、県全体として三分の一を減じ浦和市としては二分の一を数える状況であるが幼稚園数は却て三倍強となつて、さらに相当の園児を収容しているのは、一般の認識や理解度の向上と機会を得られたことによつて、それを補っているのである。

本年の実情は、各幼稚園とも入園志望率が前年より減少し、多いといわれるものも一倍半か、二倍、少きものは定員に充たないものも現われてきたのは、幼稚園の将来何を物語るものであろうか。従つて選抜に苦心を要することなども自然に解決されるものではないかと思ふのである。

而もなお、四、五年後、各小学校児童の減少の結果、空室ができたときは公立幼稚園の増加は必至で、私立幼稚園運営上の大きな問題点になるであろう。

今一つの問題は、小さな無認可幼稚園が県南地方に十ヶ所をみるに至つて、目下、県で鋭意対策をはかっている所である。

(浦和幼稚園)

東京都に於ける

幼稚園の入園状況

笠原 秀定

戦後に於て、幼児教育の重大性が段々深められ、幼稚園に入園することを希望する者が非常に多くなつた。それに伴つて東京都内に於ても、幼稚園の設置が最近急激に増加して来た。然しここ二、三年と云うものは何れの施設も希望者全部を収容することは出来ない状態であつた。戦前より施設数が増加しているにも拘らず希望者を収容しきれないと云うことは、幼児数の多くなつたことにもよるが一般に幼児の教育の重大なることを認めてきた為である。従つて今以て東京都内に於ては毎月数園の設置を見ている、現在では私立だけでも約六〇〇園に達している。

然しこの入園過剰の現象は昨年度迄のことであつて、昭和卅年度に於ては、一部の園は別として、入園希望者を収容しきれぬ段階になつたのではないかと思われる。

勿論地域的に見て幼稚園の必要を感じる処

もあるが、この二、三年の施設の激増によつて大部分の入園希望が満されて来たようである。近い処は四〇〇米位の距離に隣設されている処もあつて、適正配置が叫ばれる状態になつてきている。乗物で遠く送通うことは決して望ましいことではなく、近くに幼稚園のあることが必要なことであるが余り隣接して設置されることも考えさせられる点がある。

本年度は地域によつては定員に満たないところもあるのではないかと思われるが、之はどこに原因があるか、施設数の増加の為か、幼児数が減じて来たのか、又時局の影響か、はつきりしたことは述べられないが、一幼稚園に対する入園希望者数は二、三年前に比して減じていることは事実である。

私の園に於ても昭和二十七年度は約二倍の申込であつたが、昭和二十八年度は一年保育児は約四倍、二年保育児は二倍となつた。昭和二十九年度は矢張り二倍位であつたが、本年度に於ては一、五倍と減じて來ている。過去二、三年の間はどの園でも募集人員を相当上まわつて来たことと思う。本年の減少は最近の急激なる施設の増加も一因であるが、幼児数も減じて來ているのではないかと思ふ。

入園児の決定についても私の園では昭和二十六年迄は主として申込順にしていたのであるが、余りに希望者が多くなつた為昭和二十七年より十日間の募集期間を定め、応募者の中から同年令の幼児を月数により大小に分け二人乃至三人の教諭が一組となり個人テストを行い、年令相応の身体並に能力の発達程度を調べ、母親とも面接して選考することとしたのである。これは吾々としても心のいたむことであつて一日も早くすべてを入れるようにしたいものと思つている。本年の状況から見ると施設の増加と共に、すべての幼児が入園出来る時代も来るのではないかと心が明るくなる次第である。

(明德幼稚園)

神奈川県幼稚園の

義務教育化

杉田 熊蔵

神奈川県内の幼児教育は多くは私立幼稚園が担当し公立幼稚園は三十年度は県立高校に付設されたもの三園と市町村立十三園、計十六園に過ぎないが、戦前二園だつた公立が僅かの間にこれだけになり今後急増の傾向にある。戦後急にふえた原因は幼児教育の大切なことが認識されたことは勿論であるが、子供を家庭に置いて貰い喰や、いたずら遊びで苦勞するよりも幼稚園にやつて置けば其の間だけでも家庭の仕事が捗るという保育的のな考え方も入つて、一石二鳥の意味が多分に含まれている事は見逃すことが出来ない。

私の園は町立として四十年の歴史を持つてゐるが、昭和二十五年までは独立採算でやつて来たが其の頃すでに曾ての幼稚園入園の状況が九〇パーセントの入園率で入学前一年は義務教育化されて来たので、独立採算制をやめて、小中学校と同様に予算的措置がとら

れる様になつた。然し保育料は徴収している。入園希望者が急激にふえたのは二十三年度からで、二十四年度は園舎不足の為選抜を計画したが、町立幼稚園で町内の子弟が入園出来ないのは不都合である。選抜を施行するなから先ず他町村から入園している子供を締め出せと強剛な異議が出てついに選抜をやめて全員入園させた。全員入園と云つても身体検査をして伝染性疾患のある子供はその病気が快癒するまで入園を延期し幼稚園教育に堪えられない体力の子供や、發育不良の子供は入園を見合させている。

神奈川県公立幼稚園長は全部が兼任園長で町村立のものは小学校の機会を利用し、独立園舎を持つてゐるのは、現在秦野と大磯の二園だけである。

公立幼稚園の所在地には殆どが私立幼稚園のない所であるのと、園長が小学校の校長が兼務してゐるので、幼稚園に入園させることと、小学校に入学させることと関連して考え義務教育的傾向を強めるではないかと思われる。私の手許に集つた資料によつて入園の状況を示すと次の様である。分母の数は入園志望者数、分子の数は入園者数。